

## 地元密着のものづくり 多様性ある組織をめざす

株式会社長谷川製作所  
代表取締役社長

長谷川俊太郎 氏



ス製造(株)のバス用シャーシフレームと、(株)トヤマキカイ(現コマツNTC株)の工作機械を手がけるようになり、バス事業と工作機械事業の2つが経営の柱として大きくなりました。

バス事業は板金加工から溶接、組立までを一貫して行っています。中厚板の溶接は、当社が得意とする技術の1つです。

工作機械部門では、自動車のエンジン部品を作るための複合的な製造設備(トランスファーマシン)の設計製作をしており、現地で設置まで担当することもあります。

2019年には、後継者不在だった埼玉県(株)久保製作所を買収しました。貼箱(紙製の飾り箱)製造装置の製造や熱交換器の部品加工を行っている会社で、当社にとって新分野への進出と、両社のシナジー効果が得られると見込んでのM&Aです。直後にコロナショックに突入し、実際にはこれからその効果をねらっていきます。

### —社員の安心感が信頼品質に—

経営に対するお考えを伺います。

経営理念は、「安心・安全・信頼の『ものづくり』を通して、すべてのステークホルダーの継続的発展に寄与する『ものづくり企業』を目指す」としています。ステークホルダーの中でも社員とその家族をトップに考えております。当社は、新卒採用から長く働いている社員が多く、長期雇用に対する安心感があると感じます。

ここまで長く経営できたのは、会社に対する社員の信頼感が、安心・安全なものづくりのベースとなり、長年、取引先からの信頼も得られているからだと思います。

社員を大切にされていることがよ

く分かります。人材確保はいかがですか。

近年、若い新入社員の採用が困難な状況が続き、多くのベテラン技能者に頑張ってもらっています。そのような中、3年前に最新の溶接ロボットを導入し、期待以上に複雑な溶接ができると分かりました。省力化につながっています。

人材育成はどうされていますか。

外部のコンサルタントの指導も入れながら、5Sの徹底を図り、IT技術や省力化機器を導入して生産性の向上に努めていますが、技能の伝承が課題です。一番大きいのは、世代間の考え方や行動のギャップだと思います。

以前は、職人の仕事は現場で見て覚えるものでしたが、今の若い方は積極的に教えを請うということがあまりなく、ベテランの方も、どのように教えたらいかが、伝え方に苦慮してるように感じます。

### —デジタル活用で見える化—

ベテランの技能を伝承することは大切です。

とにかく社内のコミュニケーションを潤滑にしたいと社内SNSを導入し、社員のスマホに直接メッセージを送れるようにしました。現状では、私が朝礼などで伝えきれない考えや方針などを発信して

いますが、ゆくゆくは相互の交流に役立てたいと考えています。

もう1つ、埼玉の会社がグループに入ったことを受けて、クラウド型の生産管理システムを導入しました。離れた富山からでも管理ができるようにしたところ、このデジタル化により仕事の見える化が進みました。

今後さらに、ベテラン社員の作業などで目的がはっきりしない動きもあるので、ルールや手順を見直して見える化を図ると、かなり効率化するとみています。また、これまでOJTで教えてきた技術も、写真や動画に残して伝えやすくしようと計画しています。

自動車のEV化が進む中で、今後の取り組みを教えてください。

現在手がけている工作機械は自動車向けが主力で、EV化の進展とともに大きく変わる可能性があります。バスのシャーシも大幅な構造変更も考えられ、国際競争も激しくなることが予想されます。

当社は発注元と一緒に設計から部品加工、組立、完成品の精度確認までを一貫して行う技術を持っています。この技術力を、新しいEV向け製品にも展開していきたいと考えています。

また、工作機械そのものを作ってきたので、機械を使って部品を

製作する技術もあります。量産品は難しいながらも、最近、大手メーカーの特殊なエンジン部品の製造の依頼がありました。当社の得意とする技術を持つ会社が国内には少なくなっており、EV化が進む中でも、特殊製品の引き合いは増えてくると予想しています。

座右の銘をお願いします。

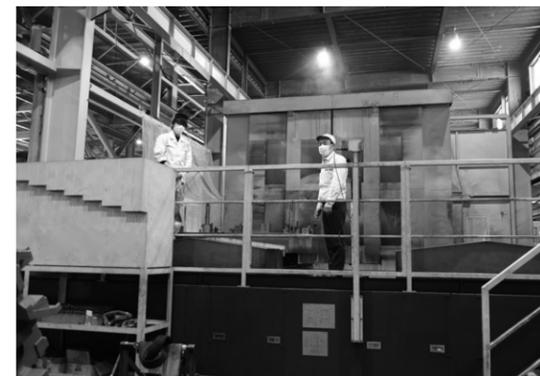
「生き残るのは、種の中で最も強い者でもなく、最も賢い者でもない。変化に最も適応できるものが生き残るのである」。自然科学者ダーウインの言葉とも、社会学者スペンサーがダーウインの「進化論」を人間社会に展開したものとも言われていますが、いずれにしても多様性のある組織が生き残る可能性が高いということだと理解しています。

多様な技術を持ち、多様な事業展開もねらっていきませんが、当社のような中小企業では、予想できる未来に対して能動的に対応し、限られた時間軸の中で個々が環境の変化に追隨して進化発展していくことだと思います。社員にも技能向上を通して仕事の幅を広げることを年度目標にして呼びかけています。

### 会社概要

#### 株式会社長谷川製作所

創業：1907(明治40)年  
所在地：砺波市三郎丸111-1  
資本金：5,000万円  
事業内容：専用工作機械・産業用機械の設計製作、自動車部品加工用トランスファーマシンの設計製作、バス用シャーシフレーム製造、自動車用部品加工  
従業員数：123名(2023年3月現在)  
関連会社：(株)久保製作所(川口市)



大型マシニングセンターも備える

### — 略 歴 —

1977(昭和52)年3月砺波市生まれ。2002年上智大学大学院理工学部機械工学専攻修了。コンサルティング会社勤務を経て、2006年(株)長谷川製作所へ入社。2013年9月代表取締役社長に就任。